

西三河都市計画ごみ処理場（一般廃棄物処理施設）岡崎西尾地域広域ごみ処理施設整備事業に係る計画段階環境配慮書についての部会報告（案）

はじめに

西三河都市計画ごみ処理場（一般廃棄物処理施設）岡崎西尾地域広域ごみ処理施設整備事業に係る計画段階環境配慮書（以下「配慮書」という。）について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

都市計画決定権者は、以下の事項について十分に検討した上で、事業計画を策定するとともに、環境影響評価方法書（以下「方法書」という。）以降の図書を作成する必要がある。

1 全般的事項

- （1）配慮書において設定された複数案を単一案に絞り込んだ経緯及びその内容について、方法書において丁寧に記載すること。
- （2）事業計画の検討に当たっては、環境の保全に関する最新の知見を踏まえ、環境影響をできる限り回避、低減すること。
- （3）廃棄物の排出抑制に向けた取組を進めるとともに、計画施設の処理能力の算定根拠を分かりやすく示すこと。
- （4）事業実施想定区域内の既存のごみ処理施設等について、本事業の一部として、解体又は撤去が行われることとなった場合には、その影響を含めて環境影響評価を適切に実施すること。

2 大気質

事業実施想定区域南側に山地があり、風向・風速がその地形による影響を受けている可能性が考えられることから、大気質について適切な調査、予測及び評価の手法を検討すること。

3 騒音

計画施設の試運転時には、既存のごみ処理施設と同時に稼働することが見込まれることから、施設からの騒音に対する適切な調査、予測及び評価の手法を検討すること。

4 動物

事業実施想定区域からの排水の放流先である須美川において、水生生物に対する適切な調査、予測及び評価の手法を検討すること。

5 景観

計画施設及び煙突の存在に伴う景観への影響が懸念されるため、これらの形状及び色彩に配慮した事業計画とするとともに、十分な現地踏査を実施した上で、適切な予測地点及び評価地点を検討すること。

6 温室効果ガス等

発電効率の高い廃棄物発電設備の導入、焼却に伴う廃熱の有効利用など、温室効果ガスの低減に配慮した事業計画とするとともに、適切な調査、予測及び評価の手法を検討すること。

7 その他

方法書以降の図書の作成に当たっては、住民等の意見に配慮するとともに、分かりやすい図書となるよう努めること。

検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
令和 4年 6月 2日	審 査 会	知事からの諮問 配慮書の内容の検討 関係市町長意見の検討 部会の設置及び付託
令和 4年 7月 8日	部 会	配慮書の内容の検討 部会報告の検討

愛知県環境影響評価審査会岡崎西尾ごみ処理施設部会構成員

生田 京子	名城大学理工学部教授
伊藤 由起	名古屋市立大学大学院医学研究科准教授
岡村 聖	名古屋産業大学現代ビジネス学部教授
片山 直美	名古屋女子大学健康科学部教授
佐野 泰之	愛知工業大学工学部教授
田代 むつみ	名古屋大学未来社会創造機構特任講師
橋本 啓史	名城大学農学部准教授
義家 亮	名古屋大学大学院工学研究科准教授
吉永 美香	名城大学理工学部教授

◎部会長 ○部会長代理

(敬称略、五十音順)